

| The True Cost を見て (自分でできることは?) |
|---|
| 問題は山積。でも消費者として、またほかに自分に何かできることがあるか、考えてみよう。 |
| 周りに事実を伝え、オーガニック製品を使う 飽きたら捨てるみたいな使い方はせずに、ほんとにずっと着れるものを選んで買うようにする |
| フェアトレードの服や食べ物だけを使って生活することはとても難しい。しかしおなじ物を長く使うことができれば少しはマシなのかと思う。 |
| まず、すぐに新しい服を買うのではなく、なるべく生地もしっかりとしたものを選び、長く着れそうで飽きなさそうなデザインを買うようにする。 |
| 実際に場所に行く事が僕にできる事だと思う。自分が場所に行って問題視をして考える事で知識としていれる事。そしてアウトプットする事で一番影響力のある事なのかなと思った。 |
| とりあえず本当に必要なもの以外は買わない事を日々意識してみようと思う。これからも何をすべきか自問自答して生活して行きたい。 |
| フェアトレード商品を意識して買ったりすることは重要だが、逆にお金がかかりすぎてしまうので、余裕があるときに少しでも貢献したい。 |
| 衣服の面で考えるのであれば、兄弟がいるなら 服が小さく感じたら弟、妹にあげるなどの再利用を考える。マスクとかも布とかで洗えば再利用できるものを使うなどにかく簡単にものを捨てないのを大切にしたい。 僕たちが買う衣服の背景には苦しんでいる人がいて命も落としている人がいるという事を忘れないようにしたい。 |
| 衣服を大切に。捨てずにリサイクルか誰かにあげる。 |
| 自分のような普段は考えていない人が新しいアイデアを出そうと思っても無理なので、世間でよく言われるようなことから意識してやる事が大事だと思う。 |
| いつも、こういう問題を考える時に思うのが自分には何もできないと考えてしまいます。しかし、自分が毎日着ている服はだれかが苦しんで血でできています。自分が知っているコストは cost だれかが苦しんだりしているのはtrue costだと映画を観て感じました。この問題はすぐさま解決しなければならないものです。自分達消費者として、モノの価値を考え直すこと、苦しんでいる人への寄付などができたらいいです。 |
| リサイクル、リデュース、リユースを利用する。 |
| すぐに服は捨てない(安いものこそ) |
| 服を大切に使うと思った。 |
| 意識の変化、問題への認知なら自分でできる。またそこから問題視する人を少しでも増やすことができると思う。 |
| COSTというのは売られている値段やそのものの価値 TRUE COSTというのはそれを作っている人への人件費や、使った地球の資源の値段も含めた値段だと考えている。 |
| 僕は季節ごとに色々新しい洋服を買う異人なので、必要以上買わないようにしないといけないと思う。しかし僕が買わなくても、どうせ他の人に買われるので、それはあまり意味のあることではないと知っている。しょせん自己満だけである。もし本当に問題を解決したいなら、大人になってアパレル業に入り軸から問題に向き合う必要があると思う。 |
| 無駄に服を買わないこと、フェアトレードの商品を買うとかが消費者としてできること あとは自分でこの話をいろんな人に広めることかが入りそう 実際にするとするとフェアトレードはお小遣いと厳しそう。 あと別に服に限ったことでもなさそう 費用の中に、現地の人の人件費が入ってないことで安い服を作っている感じ？ |
| リサイクルすることで環境には問題ないと思っていたが、そんなことはなく「第三世界」という言葉を知った。 自分でできることは何かというところでも、服を買うことを減らせば良いのではないかと考えている。 しかしそれはあまりに抽象的すぎるのでもう少し紹介すると、やはり「第三世界」に対して触れるべきだと思う。 安価で服が輸入してくる、「第三世界」に関しての私たちの問題は、近隣の服屋の需要がなくなってしまったというものだが、それらの問題は一つの地域に密集せずに、それらをしっかりと循環できるように施設に渡すべきだと私は思う。 そして、この問題を周りに流すのではなく、自分たちの地域で解決できるように、もっと呼び掛けたらそれぞれの国で問題がなくなるのではないかと思う。 最後に、服の生産者たちに対してだが、この問題はその日のノルマを達しなければ暴行を加えられ苦しい環境で服を作り続けているというものだが、これは例えば「バタゴニア」のように適切な値段を考慮して生産者にとっても無理のない範囲で生産を行うという条件がある店をもっと作れば解決するのではないかと。現行の時点では市場同士が安価なものを求めて競争をしているがその基準から外れた店とブランドを作ることによって解決するのではないかと。さらに序盤にも出てきたが、「フェアトレード」という価値をもっと広げ、国同士が規制の価格を守り合うことも解決につながってくるのではないかと私は思う。欧米でのフェアトレードの始まりは、1940年代にアメリカのNGOグループ TenThousand Villages から派生した The Mennonite Central Committeeが南米に向けて行ったことが始まりだと言われているが現在もその考え方は広がりつつあるがそんな中で全ての人が[cost]と[true cost]について知ること、つまり自分たちが普段、安価で購入しているものの背景は全て過酷な生産状況を経て作られたものという考え方を広げて正しい値段や取引とは何かを理解すれば、正当な値段で服を売ることができると思う。 |
| 問題を一つ一つ解決するよりもその問題の根本的なところから解決していかないと変わらない 結局相当な変化がないとこの問題は解決できない |
| ・古着屋はすぐに捨てないで寄付をする ・フェアトレード商品を買う ・それはどこから来たのか、だれが作ったのかに関心をもつ ・プラスチックなどの使い捨て容器は最小限に |
| まずは問題から目をそむけないことが大切だとおもった。 今日からユニクロを使わないとかはなかなか厳しいと思うが、その問題がある事を認識する必要がある。 その上で、何を着るかを自分で選んでいく必要がある。 自分でできることは、まずは服を大切にすることだとおもった。 大量生産、大量消費から脱却するには物持ちを良くするしかない。 少々高くても長く使うのなら生涯でかかる金額は一緒になる。 |
| costとturu cost costは企業から見たかかる費用 できるだけ安く済ませようとする。 turu costは人件費などの、物を製造する上で当然かかる費用。これを安く済ませようとする、どこかにしわ寄せがいく。本来、かかって当然の費用なので安くすることはできない。 |

| |
|---|
| <p>僕たちにできることは何か。</p> <ul style="list-style-type: none">・フェアトレードの商品を買う。・ unnecessary 買い物をしない。・服はボロボロになるまで着て、ボロ布に使用する。・リサイクルショップを利用する。・オーガニック商品を買う。・友愛セールを開く。 <p>cost : 不当に搾取された平等ではない取引 true cost : フェアトレードのように作っている人の人権が守られるような取引</p> <p>着れなくなるまで、自分がいつでも着れるものを買うことを意識する。</p> |
| <p>僕たちにできること。</p> <ul style="list-style-type: none">・買った服は大切に着る。・生産者と消費者がフェアな関係にあるブランドかメーカーの服を買う。・古着屋などのリユースに協力する。 <p>Cost: 店頭に貼ってある見るままの金額。 True cost: 生産者の負担、環境保護、そして素材自体の値段。これらを全て考慮して、提示する額。</p> |
| <p>COSTとTRUE COSTの意味の違い、日常生活の中で「それは果たして本質を捉えられているのかどうか」を特に買い物をする際に考えられたいなと思う。その為には、新聞を読まなければいけないというのと、自分の考えをしっかりと持つ事が必要になってくるのではないか？（僕の場合、『新聞や色々な文献を読み、「そういう考え方もあるんだ」という風に視野を広げていき、新聞を読むことにより、今起きていることをリアルタイムで知る』という感じだろうか）</p> |
| <p>衣服の面で考えるのであれば、兄弟がいるなら 服が小さく感じたら弟、妹にあげるなどの再利用を考える。マスクとかも布とかで洗えば再利用できるものを使うなどにかく簡単にものを捨てないのを大切にしたい。 僕たちが買う衣服の背景には苦しんでいる人がいて命も落としている人がいるという事を忘れないようにしたい。</p> <p>服を大切にしようと思った。</p> |
| <p>衣服の面で考えるのであれば、兄弟がいるなら 服が小さく感じたら弟、妹にあげるなどの再利用を考える。マスクとかも布とかで洗えば再利用できるものを使うなどにかく簡単にものを捨てないのを大切にしたい。 僕たちが買う衣服の背景には苦しんでいる人がいて命も落としている人がいるという事を忘れないようにしたい。</p> <p>僕はもともと、このような「グローバルな利益」のことにしても興味があって、大人になったら自分自身もフェアトレード、環境のこと、労働者のことなどをしっかり考え、起業をしたいと思っている。</p> <p>本当に、地球にとって、消費者にとって、生産者にとって安心なものを販売したいと思っている。</p> <p>フェアトレードなどを大事にしている会社の商品を選んで買うことが大事だと思う。消費者はお金を使う立場としての責任がある。</p> <p>商品を買うということはその会社に投票しているようなものだ。</p> <p>少しでも消費の意識を変えていきたい。</p> <p>また、僕はプラスチックの海の本編を見てからペットボトルの製品、プラスチックの製品を買っていない。（ほぼ） 今後も小さなことだが続けていきたいと思う。</p> |
| <p>問題を一つ一つ解決するよりもその問題の根本的なところから解決していかないと変わらない 結局相当な変化がないとこの問題は解決できない</p> |
| <p>プラスチック製品の使用量を減らす、若しくは失くす。何かをすると、必ず、廃棄物が出てしまうのでなるべく無駄な活動はしないようにしようと思いました。あと生産がどうなされているか知る</p> <p>すぐに捨てるような商品をしてできるだけ買わず、良い品質のものを長く使うことを意識して生活すること。</p> <p>ぼんぼん服を買うタイプではないが、服に限らず何か物を買うときには、買った後のことを考えると、安いものには特に気をつけようと思った。</p> <p>“必要かどうか”というのは常に考えるべきかなと思った。</p> |
| <p>わからない 万年金欠なので服は安く買いたいがこの映画を見るとそれもいけないことのような気がして板挟みになっている 古着屋とかで買うとか</p> |
| <p>ベトナム バングラディッシュの洋裁師に寄付する</p> <p>自分にできることが何かを考えたとき、1人で何かを動かすことはできないと思った。日本では今、安い物への需要が高く、物にそこまでお金をかけられない人でも買うことができるので、皆の価値観を変えるのは難しいと思う。しかし、一人一人ができることはあると思う。それは、物をたくさん買わずに大切に使うことである。物を長く使うことが私たちににとっての最善の選択だと思う。</p> <p>今まで自分が着ている服がどこで作られていたかなんて考えてなかった。消費者として責任を持って使っていきたいと思った</p> |